

連載：軌跡

教師が変われば生徒も変わる

齋藤 茂

私は昨年、37年間の教職生活を終えて定年退職した。振り返れば市川東・土気・稲毛・東金商業・東金・生浜・東金商業・磯辺ののべ8校、楽しい教職生活だった。数学部会では平成7年度から書記、14年度から事務局長、25年度から副部会長、27年度には部会長を務めさせていただいた。この間、とりわけ12年度（2000年）には上市事務局長のもと千葉県で全国大会が開催され、全国各地から集った先生方との交流を通して多くの刺激をいただいた。ここにすべての数学部会役員並びに会員の皆様に改めて感謝申し上げます。さて今回は、次代の教育の担い手である若手の先生方へ応援メッセージを贈りたい。

近年、グローバル化・情報化など急速な社会変化に伴って、学校を取り巻く環境も大きく変化し、それに対応して高校教育も大きな変化が求められている。現場では、高大接続改革、大学入試改革などの進捗状況を注視しつつ、新学習指導要領への改訂を踏まえた新しい教育課程の編成がこれから本格化するものと思われる。先生方が日ごろ授業活動を通して「生徒に身につけさせたい力」とはどんな力だろうか。その力はどうやったら培うことができるのか。今回の学習指導要領改訂の要旨の一つである「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」をどのように授業の中に取り入れていけばよいのか。学校の実情や生徒の実態に応じて授業内容・指導方法等は異なるが、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性が重要視されている以上、どこの学校でも今までの授業のやり方を再考する必要はありそうだ。一方、「大学入試が変われば高校が変わる」といわれるが、「新テスト」導入などによる入試改革は高校の授業をどのように変えようとしているのか…。こうしてみると現場は課題山積であり、先生方の悩みも絶えない。

教員の業務は、授業、教材研究、クラス（学年）経営、部活動指導、分掌業務など多岐にわたり多忙を極めてのことだろう。しかし、時間が足りないからと言って、授業及び授業準備を疎かにするわけにはいかない。また先ほど述べた授業改善・教育内容の充実が効果的に実行できるかどうかは、直接生徒の指導に当たる先生方の資質・能力に関わるところが大きいと言えよう。生徒にとって教師の影響力は極めて大きく、教師の一言で生徒がやる気を出したり、逆にやる気を失わせたりすることもある。日々の授業で、どれだけ数学のよさや有用性を伝え、わかる喜びを味わわせ、意欲を喚起できているだろうか。先生方には使命感と謙虚さ、そして常に勉強し続けて互いに高め合おうとする心を持っていただきたい。部会としても、やる気に満ちた先生方のために「研修や情報交換の場」を数多く提供していただきたい。疑問や悩みを共有して皆で知恵を出し合う場があればよいと思う。他県の先行事例なども大いに参考になるだろう。さらに教育実践から得られた成果を積極的に公表・共有して、素晴らしい実践例は広めていただきたい。

「国家百年の計は教育にあり。」人材育成には長期的な視点が欠かせないため、皆さんの今後の活躍に期待したい。以上、随分勝手な思いを書き綴ったが、これも皆さんへの期待の大きさゆえとお許し願いたい。結びに、研究熱心な先生方とそれを支援する数学部会とが連携・協力して、生徒のために全力で取り組んでいただけるようお願いいたします。